

本歌取り!!

各地で繰り広げられている逆輸入騒動
本家は堂々とクオリティで勝負すべし!!

生ゴミ餃子だけでなく、最近、韓国で食にまつわる困った話が多い。韓国のキムチの輸入量が、今年初めて輸出を上回ったのだ。キムチはまさに韓国のソウルフード。これを海外から輸入することは、韓国人の誇りをおおいに傷つけることらしい。とある新聞は「この現象はイタリアがインドからパスタを輸入するようなもの」と表現している。現在、韓国の家庭で食べられているキムチの大半は国産ということだが、外食や給食産業では中国産キムチがシェアを拡大中。「中国産キムチは味が落ちる」と言い張る人たちさえ気付かず中国産キムチを食べている可能性も高い。

この話を京都に置き換えれば、京都以外の土地で生産された賀茂茄子や鹿ヶ谷カボチャなどの京野菜が、京都の家庭の食卓にのぼるようなもの。「京野菜は京都だけのもの」と主張するか、「京都以外でも京野菜の生産がさかんになり、日本全国に普及してきた」と喜ぶべきか。思うに、「こちらが本場」と主張することに終始するより、品質の高さや生産ノウハウの豊富さなどで勝負する方がはるかにフェアだと思うのだが？

いまだききの歴史

一番新しい日本の一ページ

呪いの時代!?

「糞」「屍」「呪」が人名漢字になる!?
人名用漢字部会の提案は認めて良いのか?



人名用漢字部会が子供の命名の際に使える漢字を新たに578字追加することを検討していて、早ければ来月にも新たな漢字が使用可能となる。ところが、今回の見直し案は出版物の漢字出現頻度数調査で頻度の高い上位521字を追加したため、人名にふさわしくないとも思われる漢字も含まれている。例えば「糞」「屍」そして「呪」がそれ。「今回は常用平易という観点から選定したので、漢字の意味については一切考慮しなかった」というのが当局の見解だそう。にしても「糞」「屍」「呪」という漢字が出版物に頻出している最近の世相って、ちょっと荒み過ぎなのでは? 「呪」といえば6月、右京区にある平安時代の邸宅の井戸跡から呪詛人形が見つかった。つくりが写実的なのは「リアルにつくことで強い恨みを込め、呪い殺そうとしたから」なのだとか。筆者は「呪」という字が氾濫している現代社会を嘆いているが、実は平安時代からたいして変わりが無いのかも。

この人も
チャンバラの逆輸入だしね



この状態と違わくない?



珍策? 奇策?

カンテラもパトカーカラーも偽は偽!!
コケオドシはいつまでも通用しないぞ

滋賀県草津市は2002年度、県内で最高の犯罪発生率を記録。昨年はやや減少したものの、それでも県で3番目に犯罪が多いそう。そこで草津市は安全で安心して暮らせる町づくりの一環として「奇策」に打って出た。それは、なんと市の公用車の色をパトカーと同じ白と黒のツートンカラーに塗装するというもの! パトカーカラーの公用車を市内に走らせることでひったくりや空き巣などの犯罪の未然防止と抑止効果を狙うそう。予算は228万円なので笑って済ませる人がいるかも知れないが、それでも公金は公金。市民の税はもっと有効に使って欲しいものだ。少なくともこれより前に行うべき抜本的な解決法はいくらでもある。例えば、新築マンションが多い住宅街では特定の車種を狙った盗難が多いと聞く。市がイモビライザー搭載の補助金を出すとか、車を所有する人にイモビライザーを直接呼びかけたりしても良いのではないだろうか? 奇策はその後でいい。



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを開始。20カ国に及ぶ人々とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目指す。
HP●<http://www1.ocn.ne.jp/tsukapon/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フラダンス、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園、それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>